

ステークホルダー委員会について

京都大学では、社会貢献・コミュニケーションを促進する試みとして学内外の関係者（ステークホルダー＝利害関係者）の方々の声を集め、環境報告書や環境コミュニケーション、環境マネジメントの取り組みを進化・深化させることを目的に、昨年度よりステークホルダー委員会を設置しました。そして京都大学の環境報告書や環境配慮活動に対して以下のような提言をいただきました。

京都大学ステークホルダー委員会からの提言

1. 構成員を巻き込みつつ、環境マネジメントシステムを構築すること

京都大学らしい環境マネジメントシステムの確立に向けて、環境目標管理システム推進検討ワーキンググループを立ち上げられ、目標・目的・実施計画を立案するなど、運営体制やその成果が明らかになりつつあり、第一歩を踏み出した感があります。しかし、点検・評価、見直しの体制を整備し、次の計画に結びつける必要があります。

さらに、取り組みを行うには、各組織、構成員の理解と協力が不可欠です。教職員・学生の理解と協力を得て、トップダウン・ボトムアップの両側から、取り組みを推進する体制創りを目指してください。

2. 実効性あるエネルギー・温室効果ガス対策を展開していくこと

エネルギー・温室効果ガス対策に焦点をあてた環境配慮活動を促す取り組みは高く評価します。これが、是非、社会や他大学のモデルとなるよう展開して頂きたいと思います。そのためには、実効性あるシステムの構築と構成員へのソフト面での働きかけ、そしてハード面での対策、これらをうまく組み合わせていく必要があるでしょう。期待しています。

3. 信頼性の高い環境負荷データ収集体制を確立し、価値あるデータにしていくこと

環境負荷データについては、信頼性の向上に努めつつ、積極的な情報開示にも努めておられることを評価します。このデータを上手く活用し、環境管理活動に繋げて頂ければと思います。また、データが示している意味は何かを読者に伝えること、構成員や地域住民の方がどのような情報を求めているかを追求することも大切です。

4. 学生との協働により環境問題に取り組むこと

学生による自主的な活動を環境報告書で紹介されており、また、重要なステークホルダーであると認識しておられますが、まだ情報交換が始まった段階かと思われます。今後は、様々な活動を行っている学生の方々とコミュニケーションを図りつつ、様々な側面で協働して環境問題や情報共有に取り組む体制を築き上げていく必要があると思われます。

5. ステークホルダーとの連携を強め、新たな体制を構築していくこと

昨年度からステークホルダー委員会を設置され、学内外からの意見を真摯に受け止め、取り組みを進めてこられた姿勢は高く評価します。しかし、この間にも、京都大学における環境管理の体制は進化してきており、このあたりで一度、ステークホルダーとの関係の在り方について見直す必要があるでしょう。今後、内部・外部監査や編集の主體的な関与など、可能性を検討していければと思います。

ステークホルダー委員会からの提言をうけて

貴重なご指摘をいただき有り難うございました。昨年度発行した環境報告書は、いくつかの成果を生み、変化をもたらす始まりました。ステークホルダー委員会からの提言を受け、全学的な環境マネジメントシステム構築に向けて動きつつあります。まずは、環境報告書を通して、学内構成員全員に脱温暖化に向けたアクションを起こしていただき、具体的な数値目標を掲げ、ハード・ソフト両面からエネルギー・温室効果ガスの削減に取り組めます。

環境報告書ワーキンググループ代表 大高 幸一郎

ステークホルダー委員会の概要

様々な視点から、有意義な質問、指摘、アイデア、そしてアドバイスなどが寄せられました。初回は、特に、昨年度発行した環境報告書2006の経験を踏まえた配布方法のアイデアや記載内容の希望や提案など活発な議論が行われました。そして、最終回は、構成員へ具体的な行動を示したダイジェスト版について、様々なアイデアをいただきました。また、今後の本委員会の在り方や新たな体制の構築について活発な意見交換がなされました。

- 開催日 2007年5月23日、6月29日
- 構成 委員長：高月 紘（石川県立大学教授、京都大学環境保全センター名誉教授）
副委員長：原 強（コンシューマーズ京都 理事長）
メンバー（五十音順）
東江佳尚（京都大学文学部2回生）、浅利美鈴（京都大学環境保全センター助教）、
稲垣達也（京都大学大学院工学研究科修士1回生）、井上哲也（宝酒造（株）環境
広報部環境課）、今西恒子（聖護院学区ごみ減量推進会議）、伊良部秀輔（京都大学
大学院理学研究科博士後期課程3回生）、大嵐幸一郎（京都大学環境安全保健機構長）、
春日あゆか（京都大学大学院地球環境学舎修士2回生）、北寛子（京都大学法学部3
回生）、北村昌文（京都市環境局環境企画部環境管理課長）、酒井隆（京都府地球温
暖化防止活動推進委員）、平信行（京都大学生協同組合理事）、田中俊徳（京都大
学大学院地球環境学舎修士2回生）、中山三照（大阪観光大学観光学研究所主任客
員研究員、京大大学生態学研究センター協力研究員）、根本潤也（京都大学大学院
人間・環境学研究科修士1回生）、尾藤善直（自営業）、藤田卓也（京都大学工学部
工業化学科3回生）、藤原彬（京都大学環境安全衛生部環境安全衛生課長）、細木京
子（日本環境保護国際交流会:J.E.E）、堀籠聡（オムロン（株）ものづくり革新本部
品質・環境センター主事）、丸山郁夫（（株）高島屋京都店）、矢野順也（京都大学大
学院工学研究科修士1回生）

ステークホルダーとは？

ステークホルダーとは、事業体の利害関係者のことです。事業活動を行う上で関わるすべての人のことを言います。大学であれば、地域住民、行政、企業、学校、そして教職員や学生などを含みます。

